



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 180
16 March
2008

トピックス

メンバー国との防災協力推進

ADRCメンバー国共同プロジェクト2007:
国際都市搜索救助トレーニング
(シンガポール)

関係機関との防災協力推進

ADRHアジアワーク
ショップ開催
(北京)

都市防災フォロー
アップ会合開催
(バンコク)

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.or.jp
http://www.adrc.or.jp

© ADRC 2008

● メンバー国との防災協力推進

ADRCメンバー国共同プロジェクト2007: 国際都市搜索救助トレーニング(シンガポール)

シンガポール市民防衛庁(SCDF)は、都市搜索救助における方策と技術を学ぶための研修コースを海外の専門家に提供しています。アジア防災センター(ADRC)では、SCDFの協力のもと、2001年より毎年このコースにメンバー国の研修生を派遣しています。今年度は2008年2月25日～3月7日に実施し、バングラデシュ、韓国、ネパール、フィリピンから4名の研修生を派遣しました。

研修は、SCDFの組織内にある市民防衛学院(CDA)で行われ、経験豊かな指導者のもと、アジア地域でトップレベルの研修施設を利用して行われました。

期間中は、都市搜索救助活動についての概念や方法に関して講義で学ぶだけでなく、それらを実習の中で応用して専門的スキルや技術を習得する訓練が行われました。

実習では、実物の建物を利用して行われる高角救助訓練や建物崩壊の際の救助用トンネル掘削訓練などのほか、大災害における対応、救出器具の使用法などが行われました。

このように、最新の施設で本格的な訓練を受け、実践的な技術への理解を深めた研修生からは、同研修に対して非常に高い評価が得られました。

近年様々な自然災害が多発しているアジア地域においては、搜索救助技術の向上の必要性が求められています。ADRCでは、こうしたニーズに応えながら、メンバー国向けに今後とも搜索救助の専門家育成をサポートしていきたいと考えております。



● 関係機関との防災協力推進 DRHアジアワークショップ開催（北京）

2008年2月21～22日、第2回DRHアジア年次ワークショップが中国・北京の北京師範大学にて開催されました。このワークショップは、防災科学技術研究所（NIED）と北京師範大学の共催によるもので、2005年1月に国連防災世界会議で採択された兵庫行動枠組（HFA）に基づく日本政府の支援として、「アジア防災科学技術情報基盤（DRHアジア）の形成」プロジェクト（2006年7月～2009年3月）のフレームワークの中で実施されました。本プロジェクトは、NIEDおよびNIED地震防災フロンティア研究センター（EDM-NIED）を中心に、国連国際防災戦略事務局（UN/ISDR）、欧州連合共同研究センター、北京師範大学、ネパール地震防災協会、SEEDS-India、国際地震工学・地震学研究所（イラン）、京都大学、そしてADRCなどの機関と連携して実施されています。

本ワークショップは、DRHアジア事業のこれまでの成果の評価、プロジェクト目標達成に向けた問題点の特定、今後の課題の検討を目的としており、政府、大学、研究機関、国際・地域機関、NGOを代表する50人以上が、DRHアジアに対する各自の活動を発表しました。ADRCからは角崎悦子主任研究員が参加し、「コミュニティの防災能力評価および防災戦略策定のための意識調査手法」について発表を行いました。ワークショップではDRH声明が発出され、DRHコンソーシアムの設立、将来のDRHの活動の推進、持続に関する憲章が採択されました。詳細につきましては下記のHPをご覧ください。



<http://www.edm.bosai.go.jp/old/m-n.html> ・ <http://www.irisknet.cn/DRH/>

都市防災フォローアップ会合開催（バンコク）

2008年2月14日タイ・バンコクにおいて、都市防災に関する地域タスクフォースのフォローアップ会合が、ISDR兵庫事務所の呼びかけにより開催されました。これは2008年1月23～24日に神戸で開かれたブレインストーミング会合を受け、ISDRパートナーシップ会合に合わせて開催されたものです。8機関、1カ国から13人が参加し、地域タスクフォースの具体的なアクションプランなど、今後の課題について議論しました。京都大学のラジブ・ショウ氏、ADRCの角崎悦子主任研究員が、それぞれ議長、副議長に選出されました。参加機関は、議論を深め、今後の地域タスクフォース活動の指標となるマトリクスを完成させることを確認しました。また、更に多くの機関の関与の必要性が認められました。詳細につきましては、ADRCもしくはISDR兵庫事務所の松岡プログラムオフィサー（matsuoka@un.org）までお問い合わせください。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.or.jp までEメールをお寄せください。